

## ② 横浜ユースを通じたオープンイノベーションの可能性

### 1 地域デザイン7 Step pに沿ったプログラム 設計

2014年10月から、15〜25歳までの若者を対象に、横浜市の地域課題を視える化したり、課題解決のためのアプリを開発するアイデアソンやハッカソン「横浜ユース」を実施した。この企画は、事務局を務めたAPITECの掲げる市民参画のまちづくりを回すためのエコシステム「地域デザイン7 Step」(図1)に基づいて計画されたものであり、本稿では、その「地域デザイン7 Step」に基づき企画全体の流れを報告する。

### 2 Stepに沿った企画 概要の紹介

#### Step1 発案・課題抽出 『中期4か年計画の策定段階 における対話の一手法』

横浜市は、新しい「中期4か年計画2014〜2017」を2014年12月

に策定した。このなかでデータに基づいて課題を明確にすることにより、超高齢・人口減少社会に向けた対策を示しており、仮に何もしなかった場合の極めて厳しい未来を予測することによって、具体的な計画に結び付けられるように考案されている。

策定にあたってはパブリックコメントなどを通じて、様々な形で市民の声を反映しているが、今回、これまでの総合計画の策定とは異なる参画と協働の手法として、中期計画の案の内容とデータをオープンデータ化している。それは、この新しい中期計画において、横浜の未来を切り拓いていく上での不可欠なポイントとして、「対話による創造」を掲げているからであり、そのことよって課題を解決するためのアイデアや知見を交換したいと考えているからである。横浜市が、市民との意見交換に留まらず、相互に協働・共創することで課題を解決するためのアクションを興すことを強く打ち

出しているのだと考えられる。

#### Step2 議論・自分ごと 化『横浜ユース企画の考案』

横浜市により公開されたオープンデータをより市民に身近に感じてもらう、市の課題を「自分ごと化」してもらうことを目的に、15歳から25歳までの若者たちに呼びかけて、課題やデータを市民に見える化」するためのビジュアライゼーションと課題解決のためのアプリを開発するアイデアソンやハッカソンを開催する「横浜ユース」を企画した。

対象を15歳から25歳までの若者としたのは、未来の横浜を支える若者の将来に期待をし、学びを形にする機会を地域から提供したいと考えたからである。すなわち、まず「隼より始めよ」の故事に習い、若者の意見に行政が耳を傾け計画の内容に反映するということに留まらず、若者自身が中期計画で掲げられている課題に基づいて、様々なア

クションを興すことを促した」との考えであった。

まず、若者が地域の課題解決を真剣に考える機会を創出するため、APITECの企画・運営のもとアイデアソンやハッカソンを開催することとし、横浜市は、データの提供や企業・学校関係者などの多様な主体をコーディネートするなどのサポートや当企画で生まれ優れた作品について、行政として出来る限りのアピールと活用をしていくこととした。

#### Step3 認知・共感 『アイデアソ ンの実施か ら企画の再 構築』

2014年10月19日(日)にさくらWORLD S(関内)にてアイデアソンを実施した。

執筆

藤川 遼介  
株式会社エビテック代表取締役社長  
松富 瑞樹  
株式会社エビテック取締役キャリア  
デザイン部統括部長



図1 地域デザイン7 Step

横浜市の中期4か年計画の説明に始まり、協賛の企業・NPOからの事業説明を行うことで、より企画趣旨が明確化されて進行が進められた。

アイデアソンは、二重の円を作り、参加者全員が1対1で対話を繰り返すアイスブレイクにはじまり、各自、その話を整理した上で「アイデア・スケッチ」を作成した。このアイデア・スケッチを参加者全員で全て確認し、共感を多く集めた上位のアイデアをベースにアイデアソンを実施した。参加者は、市内の大学生（横浜国立大学、横浜市立大学、東京都立大学、フェリス女学院等）を中心に40名を超える若者たちが集まった。また、生まれたアイデアは、雇用、観光、居住、地域課題など、様々な視点からのものが挙がった。

当初は、このアイデアソンで出されたアイデアをアプリ化する予定であったが、「アイデアソンに集まった大学生の多くが文系であり、アプリ開発やデータビジュライズの技術を持っていなかったこと」や「高校生や専門学校生の参加も図る必要があった」ことから、情報科学専門学校・横浜サイエンスフロンティア高校・東京都市大学の協力を

得て、ハッカソンまでの期間で、それぞれの学校でアイデアソンを2回、データビジュライゼーションを1回、技術セミナー1回を実施し、チームの再構築や企画の見直しを行った。

#### Step 4 拡散・トライアル 『ハッカソン・ビジュライゼーションの実施』

2014年12月21日（日）に情報科学専門学校にてハッカソンを実施した。横浜市の中期4か年計画の説明に始まり、事前にテーマを決めていた各グループから製作意図の説明を行った。各グループとも、特徴を明確化し、準備から力を入れている様子が伺えた。

ハッカソン・ビジュライゼーションは、各グループが指定された部屋に移動し、精力的に作業を進めていた。このハッカソンでは、観光のアプリが6つ、雇用のアプリが1つ、地域課題のアプリが2つ挙がった。このハッカソンで考案されたアイデアは、その後もユースフォーラムの実施までの期間、各グループが作品をブラッシュアップし続けた。

#### Step 5 合意形成・プ

#### プロジェクト化『横浜ユースフォーラムの実施』

2015年1月25日（日）に横浜情報文化センター「情文ホール」にて横浜ユースフォーラムを実施した。

これは、学生がこれまでのアイデアソン・ハッカソンで作りに上げてきたアプリ・ビジュライゼーションの報告・授賞式の間である。

報告会は、各グループからの考案されたアプリに関するショートプレゼンテーションとパネルセッションの2部構成の発表で行った。

ショートプレゼンテーションでは、発表時間が2分間と限られた時間の中で、パワーポイントを用いた発表やプロモーションビデオを制作して発表など、様々な手法が用いられた。パネルセッションでは、各グループとも事前に用意したパネルや作製したアプリなどを用いて一般参加者や審査員などに説明を行った。

報告会後は、これまで技術協力をしていただいた共催企業の方々による基調講演を行った。最後の授賞式では、これまで発表されたアプリ・ビジュライゼーションから部門別に賞が発表された。（次ページ参照）

#### Step 6 実践・ブランド形成 『製品化・次年度に向けて』

横浜ユースフォーラムで優秀作品として選ばれたグループは、2015年1月25日に開催されたインターナショナル・オープンデータ・デイ2015@横浜のポスターセッションで、報告・発表を行った。

ポスターセッションでは、学生が積極的に来場者とコミュニケーションを行い、アプリの紹介や今後の活用法・改良方法・プロモーションのあり方などの意見交換が実施された。今回のポスターセッションは、学生にとって自ら考案したアプリケーションに対して市民の方々から講評を受ける貴重な場であり、前向きな意見をいただくことでモチベーションを高め、更なる改良に向けて学びを得ることができた。

ポスターセッション後には、メイנסテージにおいて、「横浜ユースハッカソンの今後の展開を考える」と題してディスカッションが実施され、優秀作品に選ばれた学生からの感想や今後の展望を述べていただいた他、各学生の所属する学校の先生方からの感想や横浜ユースフォーラ

ムで司会をなされたフェリス女学院大学の学生より企画全体の感想と題してご講評をいただいた。また、事務局より、今回の一連の企画の振り返り及び次年度の取組に向けた抱負を述べたのち、最後に横浜市より当企画の振り返りと未来に向けた抱負をいただくという構成で、有意義なディスカッションを終えた。また、優秀作品は、様々な広報手段を通じてプロモーションを行うことが確認された。

#### Step 7/0 検証・見える化 『調査季報への掲載』

今回の横浜ユースアイデアソン・ハッカソンは、この調査季報への掲載報告に留まらず、この4月以降、関連する学校教育機関及び企業・NPO・行政によって検証を行い、若者を育成するための恒常的なプラットフォームづくりに活かしていく予定である。

横浜ユースフォーラム  
結果発表

●アプリ部門

◆横浜市政策局局長賞  
A・Senkyo (Team  
inflater)

投票率向上に向けて選挙に関するデータの閲覧や自分の投票所が検索できる。



◆グリー賞

震災の横浜AR (横浜の震災AR)

関東大震災で被害を受けた風景や資料が現在位置情報と連動してカメラに反映。

◆ディー・エヌ・エー賞

横浜黎明期〜あなたが作る未来の横浜〜 (サイエンスフロントティア1)

ユーザーが市長となって横浜市の課題を解決していくシミュレーションゲーム。

◆日本アイ・ビー・エム賞

Local Towns〜みなとみらい×自転車〜 (けったましん)

みなとみらいを中心に自転車での観光スポットをめぐりながら健康を促進する。

◆日本マイクロソフト賞

横浜縦断ウルトラクイズ! (サイエンスフロントティア2)

マップ上のクイズを解きながら横浜縦断を体験、位置情報との連動可能。

【考案されたアプリ】

旧東海道ARクイズツアー (チーム上野研究室1班)

目的地に近づく则表示されるクイズに答えながら旧東海道を巡る。

HomeWorker〜家にながら仕事を探せる〜 (Fグループ)

求職者と企業の双方からコンパクト可能な就職支援で横浜市の労働者数減少を解決。

はまズーム!! (はまズーム!!) 商業施設内のマップが表示され、迷子にならずに買い物ができる。

ヨコハマウォーカー (Eグループ)

コース上の公衆トイレや店舗の情報などが表示され楽しく安全に散歩を楽しめる。

Y maps (Iグループ)

ルート検索やミニゲームなどを搭載し、歩きながら横浜の情報を取得できる。

Yokohama Sensor (Bグループ)

現在位置から周辺のイベント情報や観光パンフレットを閲覧できる。

たねまるストリート (Dグループ)

自分のツイートした場所をMAPに表示し、他のユーザーと繋がることができる。

こうきようサーチ (非眼鏡同盟)

横浜市にあるあらゆる公共施設の情報をジャンルごとに素早く検索、地図表示。

浜っぴ・HAMAP (はまっぴ)

カメラ機能で道路を映すと目的の地へ向かう進路が矢印で表示される。

Hamannity Map (エキセントリック少年ボウイズ)

通常時は観光情報、災害時は避難場所、交通情報等に切替、チャット機能も搭載。

横浜市営地下鉄スマホ版 Yellow Line (Yellow Line)

横浜市営地下鉄の運行状況、時刻表、駅周辺情報などを表示。

ANYWHERE DOOR (ANYWHERE DOOR)

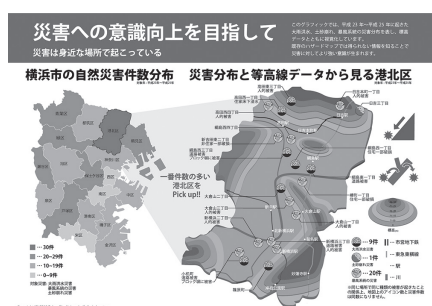
外国人観光客のためのARナビ (チーム ドラえもん) 外国人観光客向けに英語による観光地情報や施設までの距離などを表示。

●データビジュアライズ部門

◆横浜市政策局局長賞

災害への意識向上を目指して (東京都市大学小池研究室Bグループ)

洪水などの自然災害の発生分布状況と標高・地形との関係視覚化。



◆日本マイクロソフト賞

横浜市のゴミの変化 (東京都市大学小池研究室Cグループ)

横浜市の平成21〜25年の5年間のゴミの量、焼却場ごとの焼却量の変化を視覚化。

【考案されたデータビジュアライゼーション】

横浜で就職しよう! (東京都市大学小池研究室Eグループ)

10代、20代を対象に市内の企業立地や家賃、学校の分布などを視覚化。

都筑区に住もう (東京都市大学小池研究室Dグループ)

20代、30代の若年層に注目し、都筑区と港北区の若年層の人

口割合、地価の推移を比較。

横浜市に20代を呼ぼう! (東京都市大学小池研究室Aグループ)

西区を題材に、新居を探すうえで重要な家賃や立地、路線情報などを可視化。

人口と犯罪から横浜を見る (東京都市大学小池研究室Fグループ)

犯罪の発生状況を人口、居住地・繁華街の別とあわせて可視化。

まちなかbizあおば起業支援プロジェクト (横浜デジタルアーツ専門学校総合デザインゼミナールまちなかbizあおば起業支援プロジェクトチーム) 地域課題解決に向けた民間の活動や学生の取組を市の課題とあわせて視覚化。

